

第3章 計画の内容

第3章 計画の内容

3.1 計画の目的

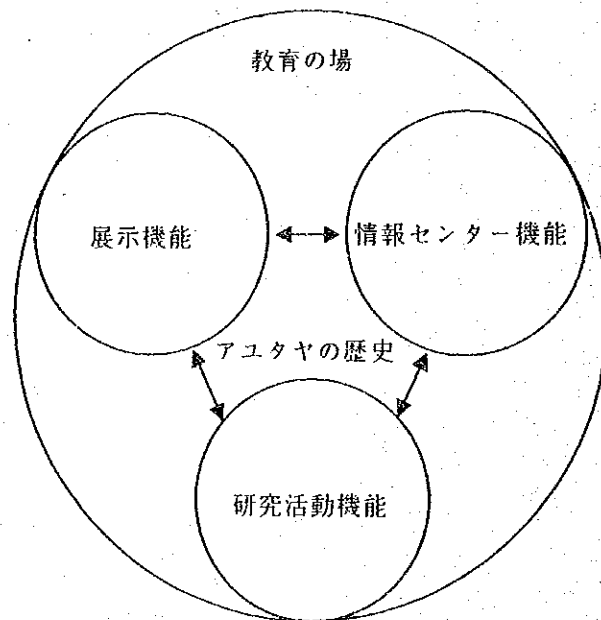
アユタヤは1350年から1767年まで33代417年にわたるアユタヤ王朝の首都であり、14世紀から18世紀にかけて欧州諸国や中国、日本を含むアジア各国との交易を通じて繁栄した。又、アユタヤは国際的交易都市であるばかりではなく、タイ史上初めて出現した中央集権的な統治システムを備えた国家であった。現在タイに於てはアユタヤの概括的な歴史を学ぶための施設は不十分であり又、アユタヤ史に関する資料の統括的収集、保管、整理等も充分に行われていない。従って、本計画はアユタヤ歴史資料館を建設し、もって①タイ国民及びアユタヤを訪れる外国人に対し、綿密な研究によって解明された歴史的事実に基づく展示を通じ、アユタヤの歴史についての社会教育の場を提供し、②資料収集・調査活動に基づきアユタヤ史に関する情報センターの役割を担い、併せて③タイ国内外の教育・研究機関との協力を通じアユタヤ史に関する研究活動を振興することを目的とするものである。

3-2 アユタヤ歴史資料館の機能及び活動内容

アユタヤ歴史資料館の機能及び活動内容は以下の3点である。

- (1) 本歴史資料館の最重要な機能は、公開展示を通してアユタヤの歴史の全貌を学ぶ社会教育の場を提供することである。
- (2) 本歴史資料館は、アユタヤの歴史資料について、少なくともその主要なものについての情報を十全に整えねばならない。展示準備作業の段階および開館後もひきつづき調査、整備された諸資料についてはそれが広く公開される必要がある。これにより、本歴史資料館がアユタヤ史に関する情報センターの機能を果たすことになる。
- (3) 本歴史資料館は、将来において、タイ国内および国外の教育・研究機関との協力によって、アユタヤ史に関する広範な研究活動を振興し、組織する機能を果たす。研究活動を組織する機能については、他の大学、博物館等との協力体制の確立を待って果されるべきものである。したがって、その体制が確立されるならば、歴史資料館の活動を内容的に充実させることになる。

歴史資料館の機能概念図



3-3 展示テーマ

第一次、第二次事前調査団および第一次、第二次基本設計調査団派遣時に開催されたタイ側学術委員会との協議において、展示のテーマ及びサブテーマに関する検討が行われた。この中で、展示のテーマおよびサブテーマは段階的に具体性を高め、最終的に以下の内容で展示計画に係る基本設計を行うことで合意を得た。従って、全ての展示計画は、このテーマおよびサブテーマに基づいて策定されるものである。

テーマⅠ 首都としてのアユタヤ

サブテーマ

- i. アユタヤ
- ii. 王宮
- iii. ワット・チャイ・ワッタナラーム
- iv. ワット・ナー・プラ・メン
- v. エレファント・クラール
- vi. ワット・マハー・タート
- vii. ワット・ヤイ・チャイ・モンコン

テーマⅡ 港町としてのアユタヤ

サブテーマ

- i. 国際港としてのアユタヤ
- ii. アユタヤ港のすがた
- iii. アユタヤをめぐる貿易
- iv. 外国人との関係
 - 貿易関係
 - 軍隊
 - 外交
 - 争い
 - 西洋の技術

テーマⅢ 中央集権国家としてのアユタヤ

サブテーマ

- i. インドラ・ピセーク
- ii. 前アユタヤ国家
- iii. 王権と官僚制
 - 王権の象徴と王国の地方支配
 - 誓忠式
 - 王舟の行列

- 王権の争奪と王権への反抗
- プライの支配
- iv. 国家と社会: 社会的統一性
 - 市民の三界経観
 - 仏陀の輪廻十生
 - サラブリの仏足跡への王の行列

テーマⅣ アユタヤの村の生活

サブテーマ

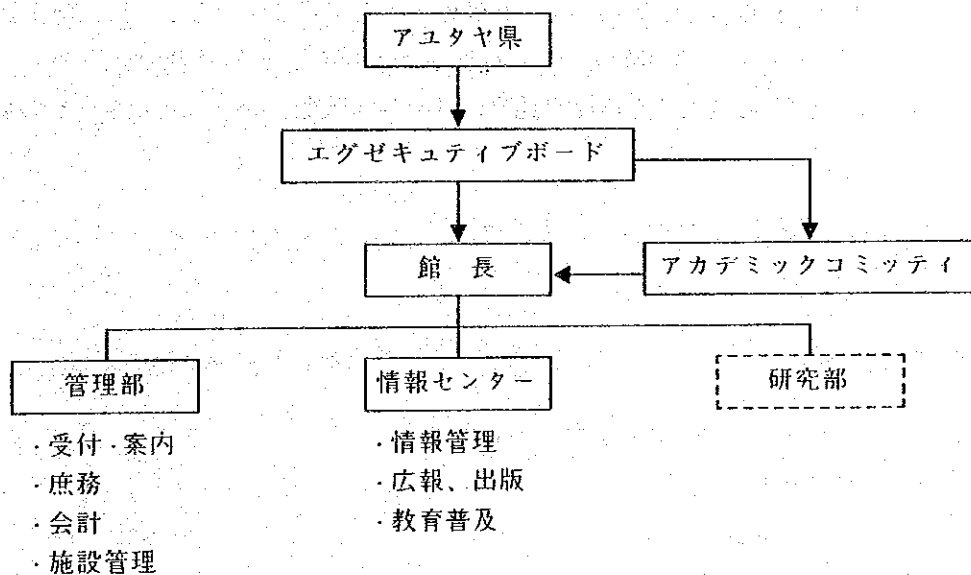
- i. 農民社会の生活
- ii. ライフ・サイクル1
 - 幼少期
 - 成人
 - 結婚
- iii. 家の内部
- iv. 農耕
- v. 災禍
- vi. ライフ・サイクル2
 - チート・マハー・チャート
 - 娯楽
 - 医療
 - 死と死後

3-4 組織と人員配置

3-4-1 組織

本歴史資料館の運営主体はアユタヤ県であり、アユタヤ県知事を責任者とし、その下に内務省、教育省、学術委員会及び泰日協会のメンバーにより構成されるエグゼキュティブボードが設立され、知事を補佐し、施設全体の管理を円滑に推進させることになっている。又、本歴史資料館が計画の目的に沿って、それぞれの機能を十分に発揮出来るために、エグゼキュティブボードの下に学識経験者よりなるアカデミックコミッティを設け、館の企画、運営に関し館長へ指導、助言を与え、館の活動を円滑に機能するよう考慮されている。

本歴史資料館の運営体制・組織は下記の通りである。



- ① 管理部
敷地内の施設、設備の維持管理、庶務、会計、受付案内等の管理事務を担当する。
- ② 情報センター
資料の収集、整理、保管、及び利用者に対して情報を提供する広報、出版サービス、教育普及などを担当する。
- ③ 研究部
将来において、タイ国内および国外の教育、研究機関との協力によって、アユタヤ史に関する広範な研究活動を振興し、組織することを担当する。

本歴史資料館は高度な専門性と創造性を必要とする文化施設であるからその運営にあたっては、広く人材を確保し、養成を行い、館の活動の質の向上を持続的に図る必要がある。

3-4-2 人員配置

館の設立時における人員配置は以下のとおりである。

館長 : 1人

管理部 : 受付案内2人、会計・庶務2人、施設1人

情報センター : 資料・広報1人~2人

計7~8人

上記職員以外に施設の清掃、警備の為の人員が必要である。又、研究部は将来の活動部門であるので設立時の人員には含めていない。来館者の数に応じて、受付・案内の人員、又企画展示のための人員等はパートの採用、ボランティアの活用等が考えられる。

3-5 必要な施設と機材

3-5-1 必要な施設内容

前述の歴史資料館の活動内容、展示内容及び人員配置計画を考慮した上で本計画に必要とされる施設の内容は下記の通りである。

- 1) 展示内容からテーマⅠのシンボル展示室は入口ホールをかねて約330 m²、テーマⅡ、Ⅲ、Ⅳの三つの部門展示室は各220 m²、全体で展示スペースは約990 m²を必要とする。
- 2) 収蔵関係諸室は施設全体の約1/3、600m²程度を必要とするが当面その半分の約300m²を整備し、将来必要に応じ増設が可能な様に考慮しておく。
- 3) 施設の有効利用を図るため、随時使用する特別企画展示と教育普及部門の一つである講義室をかねた多目的ホールを設ける。120~150席が入れる150 m²の規模とする。
- 4) 管理関係諸室及び情報センター、図書館は施設全体の約12%~15%程度約260 m²とする。

以上より必要な施設の内容をもとめると以下の様になる。

● 展示スペース	990 m ²	テーマⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ
● 収蔵関係諸室	300 m ²	将来の増築の可能性を考慮
● 多目的ホール	150 m ²	講義室、企画展示に使用
● 管理関係諸室	260 m ²	情報センター、図書室を含む
● 廊下、階段、便所等	230 m ²	
● 機械室	70 m ²	
	計2,000 m ²	

3-5-2 必要な機材内容

当歴史資料館の展示機能、情報センター機能を活動させるために、次のような機材が必要である。

- ビデオシステム
ビデオムービー、バッテリーバック、カラーモニターテレビ、ビデオカセットレコーダー、自動編集コントロールユニット
- オーバーヘッドプロジェクター
措置型、有効資料面積250×250 m/m
- 複写機
乾式電子写真方式、原稿サイズ最大A3判
- カメラ、及び暗室用機材
カメラ、引伸機、現像・プリント用機材
- タイプライター3台
電子タイプライター、タイ語、英語両用
- 製本機
最大製本物長さ445 m/m以内、厚さ75 m/m以内
- 車両
展示資料収集用

第4章 基本設計

第4章 基本設計

4-1 展示基本計画

4-1-1 基本方針

本計画は3-1「計画の目的」で述べた様に“歴史的事実に基づく展示を通じて、アユタヤの概括的な歴史を学ぶ機会を、タイ国民をはじめ外国人見学者にも提供し、タイ王国の歴史に関する理解を高めること”を目的としている。なかでもアユタヤ地域の人々にアユタヤの歴史を体系的に紹介する社会教育の場としても位置づけがなされており、地域に根ざした施設計画が本プロジェクトの背景としてある。

この目的を十分理解した上で、効果的な計画を行うため、下記の基本方針に基づいて展示基本計画を行う。

- ① 展示空間は展示されるものと建築空間との調和をはかり展示物が明快に見学者の印象に残るものとする。
- ② 人の動き(動線)については、選択して各テーマが見学できる事を配慮する。
- ③ 目的、興味の異なった見学者の各層がそれぞれに満足できるよう、選択性のある展示シナリオ、展示手法を策定する。
- ④ 見学者が直接に展示物を観察し、学習できるよう、模型・模造品・レプリカ展示ではなるべくオープン展示に近い形で展示環境を作る。
- ⑤ 実物資料展示は保存環境に十分留意する。
- ⑥ 空間全体の環境設定に留意する。
(床、壁、天井、温度、光、音、etc.)
- ⑦ 展示資料の安全管理が十分できる配慮をする。
- ⑧ 現地の技術、材料、工法に十分配慮し、経済的な維持管理が容易な施設。機材を計画する。

4-1-2 展示コンセプト

- 1) 各テーマについての展示コンセプトは以下の通りである。

テーマⅠ イン트로ダクション：首都としてのアユタヤ

展示全体の導入空間として、基本的な情報を提供する場とする。

大型のアユタヤ地図を中心に据え、これを取り巻いて、首都としてのアユタヤを構造的に捉える観点から、政治、軍事、宗教、芸術などの点で重要な役割を担った諸施設を、模型、グラフィックパネルなどの手法で展示構成する。

天井高のある大空間にテーマⅡ、Ⅲ、Ⅳのシンボル展示がせり出してくる空間構成をとる。各テーマゾーンへのパースペクティブを確保し、イントロダクション空間にふさわしい、象徴的な環境演出を図る。

テーマⅡ 港町としてのアユタヤ

アユタヤは四方を川に囲まれた島であり、その歴史の初期から、タイ国内および東南アジア貿易における要港として位置づけられた。ここでは、地理的条件に恵まれて繁栄したアユタヤの港町としての側面に焦点をあてる。

展示内容の概略は以下の通り。

● 国際港としてのアユタヤ

17世紀の東南アジア交易のなかでのアユタヤの位置づけ、アユタヤに入港した各国の貿易船などを紹介する。

● アユタヤ港のすがた

アユタヤ島の経済・産業地区の分布、その中での外国人居留地の分布などを紹介するとともに、その中でも交易の中心舞台となった「ボンベット地区」を取り上げ、当時の風景を再現する。

● アユタヤをめぐる貿易

国内、国外の交易の実態を、交易路や交易品などから明らかにする。

● 外国人との関わり

アユタヤの歴史に散見する外国人関連のトピックスを取り上げ、貿易関係、軍隊、外交、争い、西洋の技術といったジャンルごとに、アユタヤと各国の特徴的な関わりを紹介する。

当テーマゾーンにおいては、タイのジャンク船の1/10程度の模型を構成し、これをシンボルとして位置づける。

テーマⅢ 中央集権国家としてのアユタヤ

アユタヤは、タイ全土を支配した初めての本格的中央集権国家であった。ここでは、アユタヤで行われた中央集権支配の仕組みや実際の運用を取り上げる。

展示内容の概略は以下の通り。

- 前アユタヤ国家

アユタヤ成立以前の都市国家、アユタヤに服属して土侯国となった都市国家を解説するとともに、首都となる以前のアユタヤ(アヨダヤ)のようすを紹介する。

- 王権と官僚性

土侯国の支配の実態、王権を象徴する儀礼、庶民の生活などから、アユタヤの中央集権制を具体的に示す。

- 社会的な統一性

社会構造の根本理論であった仏教を取り上げ、それが社会の統一性を保つ上でどのように運用されたかを解説する。

当テーマゾーンにおいては、インドラ・ビセーク儀礼をシンボルとして取り上げるとともに、三界経の宇宙観を天井画として表現する。

テーマⅣ アユタヤの村の生活

アユタヤ地方で伝統的に営まれてきた農村の生活を取り上げ、民俗的な展示を展開する。

村の生活に関わる重要なトピックスの周辺に、誕生から死にいたる村人の一生を展示の構成ストーリーとして展開する。展示内容の概略は以下の通りである。

- 農民社会の生活

農村の生活全体を概論的に紹介する。寺院の壁画、村の模型等を中心として、当展示ゾーンの核となるコーナーとする。

- ライフ・サイクル1

幼少期から成人、結婚などを通して社会人へと成長してゆく過程。

- 家の内部

毎日の生活の舞台となる家、その中からいくつかの部分を取り上げて原寸大の復元を行う。

- 農耕

農民の生活の中心な営みである農業を取り上げる。

- 災禍

村の生活に重大な影響を及ぼす外部からの影響を取り上げる。

ライフサイクル2

宗教生活、娯楽、医療、死と死後など、日常的な生活から人生の終焉へと向かう過程。

当テーマゾーンにおいては、村人の生活が壁画として描かれた寺院の壁を原寸大で復元し、これをシンボルとして位置づける。

2) 展示構成リスト

展示内容を以下に示す。

テーマI インTRODクシヨN:首都としてのアユタヤ

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考
アユタヤ	現在のアユタヤとその周辺	学術調査資料	大型地図	
	ラーマ5世時代のアユタヤ	実物 (写真)	スライド	
	外国人が描いたアユタヤ (鳥瞰図)	実物 (絵)		
	外国人が描いたアユタヤ (道路図)	実物 (地図)		
	外国人が描いたアユタヤ (水路図)	実物 (地図)		
王宮	王宮	学術調査資料		模型
ワット・チャイ・ワッタナラーム	ワット・チャイ・ワッタナラーム	学術調査資料	模型	
ワット・ナー・プラメン	クラウンド・ブッダ	実物	写真	ワット・チャイ・ワッタナラームの近くにレイアウト
エレファント・クラール	エレファント・クラール	学術調査資料	模型	
	象の行軍	学術調査資料	グラフィック・パネル	
	象による交通と交易	学術調査資料	グラフィック・パネル	
	象の戦闘	学術調査資料	グラフィック・パネル	ワット・スワンにあるナレスワン王とビルマ皇太子の騎象戦の絵を参考にする
	白象	学術調査資料	グラフィック・パネル	
ワット・マハー・タート	ワット・マハー・タート	学術調査資料	グラフィック・パネル	王宮とブン・プララームが背景に見える
	仏塔の内部構造	学術調査資料	グラフィック・パネル	
	仏陀の聖遺物	実物	写真	
ワット・ヤイ・チャイ・モンコン	ワット・ヤイ・チャイ・モンコン	学術調査資料	グラフィック・パネル	現在の風景を表現 エントランスホールに展示

テーマII 港町としてのアユタヤ

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考
国際港としてのアユタヤ	17世紀の東南アジアと重要な港	学術調査資料	地図	
	商船 ・中国船 ・日本船 ・ジャワ船 ・オランダ船	学術調査資料	模型	1/50から1/100
	タイの商船	学術調査資料	模型	1/10
アユタヤ港のすがた	アユタヤにおける経済地区の分布	学術調査資料	装置地図	<ul style="list-style-type: none"> 外国人居留地 産業地区 貿易港 税関 王室倉庫
	港(ボン・ベツト)	学術調査資料	ジオラマ	<ul style="list-style-type: none"> タイ・ジャンク船(1/50) 食品、果物等 地元の小舟 荷を積んで運河に入ってゆく中型の船 ワット・バナン・チュン ボン・ベツト砦 家 店 人々 など
アユタヤをめぐる貿易	国内の流通経路(陸路・水路)	学術調査資料	装置地図	
	国内の流通品	実物	実物またはレプリカ	
	国外の貿易経路	学術調査資料	装置地図	
	輸入品 ・中国 ・日本 ・インド ・ベルシャ ・ジャワ ・マレーシア ・ヨーロッパ	実物	実物またはレプリカ	例：中国の陶器
	シャム湾の沈船	写真	写真	

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考
外国人との 関わり ● 貿易関係	タイ・ジャンク船と 中国人乗組員	実物(文献)	レプリカ	
		実物(壁画)	グラフィック・パネル	
	東インド会社 社屋	実物 (東インド 会社 社屋の絵: 17世紀)	グラフィック・パネル	
● 軍隊	諸外国傭兵部隊 の行軍	実物 (コーイ 折木)	レプリカ	
● 外交 ① 大使	フランスからアユタ ヤへ	学術調査資料	グラフィック・パネル	
② 公文書	アユタヤから日本へ	実物	レプリカ	
		学術調査資料		
	日本からアユタヤへ	実物	レプリカ	
		学術調査資料		
● 争い	マカサル	学術調査資料	グラフィック・パネル	
● 西洋の技術	バンコクの西洋 式要塞の平面図	実物	レプリカ	
	建築	実物	写真	
	古地図	実物	レプリカ	
	科学的装置	実物	レプリカ	
		実物 (本の挿絵)	グラフィック・パネル	ナライ王が天体観測を するシーン

テーマⅢ 中央集権国家としてのアユタヤ

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考
インドラ・ピセーク	インドラ・ピセーク	実物 (寺院の門)	復元模型	
		学術調査資料	グラフィック・パネル	・メール山 ・ナーガ (カン・チャック・ナーガ) ・内外の官僚、土候 ・国主が参加し王が ・主宰する儀式
前アユタヤ国家	アユタヤ以前のサ イアム湾岸の国家 ・ウートン ・ナコン・パトム ・シーマホーソット ・ラウー (ロップリ) ・ハリブンチャイ ・ピマイ	学術調査資料	タイ全土の地図 および 現在の各都市の 航空写真	
	各都市のシンボル ・仏塔の基段お よび転法輪 (ウートン) ・ブラ・パトム・ チェディー (ナコン・パトム) ・スラ・モラコットの 仏足跡 (シーマホーソッ ト) ・ブラ・プラン・サ ムヨート (ラウー) ・チェディー・ワッ ト・クカート (ハリブンチャイ) ・ブラサート・ピ ン・ピマイ(ピマイ)	学術調査資料	小型模型	

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考
前アユタヤ国家	スコタイ時代およびそれ以降の国家 ・スコタイ ・ナコン・シー・タマラート ・チェンマイ ・スパンナブーム ・ベチャプリ ・アヨダヤ	学術調査資料	タイ全土の地図および現在の各都市の航空写真	
	各都市のシンボル ・蓮型仏塔： チェディー・ソンブームカオピン(スコタイ) ・ブラ・ポロマタート(ナコン・シー・タマラート) ・ワット・チェディー・ルアン(チェンマイ) ・ワット・パー・ライライの大仏(スパンナブーム) ・ワット・カンベンレーン(ベチャプリ) ・ワット・バナ・チューン(アヨダヤ)	学術調査資料	小型模型	
	アヨダヤ時代の主要遺物 ・ワット・タンミカラートの仏頭 ・ワット・ブララーム主塔の漆喰仏 ・バナ・チューン大仏 ・ワット・ブクタイサワンの結界石 ・チェディー・ワット・クン・ムアンチャイ	実物	グラフィック・パネル	
	アヨダヤ時代の主要遺物分布	学術調査資料	グラフィック・パネル(地図)	
	アユタヤ時代の水路	文学	グラフィック・パネル(地図)	

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考
● 王権と 官僚制 王権の 象徴と王国 の地方支配	流通路	学術調査資料	地図	地方支配の仕組みも盛り込む
	行軍路	実物(古地図)	地図	
● 誓忠式	王座 ワット・ラーチャプラナ の王室宝器 ・王冠 ・王剣 ・王家の水差し	実物 実物	縮小模型 縮小模型	実物はチャオサンプラヤ博物館所蔵
	誓忠式	学術調査資料	グラフィック・パネル	ワット・プラ・スイー・サンベットの 本堂内
	誓忠式の楽器 ・法螺貝 ・ドラム ・ドラ	実物	レプリカ	
	各楽器の音	学術調査資料	テープ	
	誓忠式の道具 ・水盤 ・剣 ・弓	実物	レプリカ	
● 王舟の行列	王舟の行列	学術調査資料	マジック・ビジョン	プライの妻が窓から王舟を覗いている
● 王権の 争奪と王権 への抵抗	王権の争奪と王権への抵抗	学術調査資料	グラフィック・パネル (4枚)	
● プライの 支配	プライの支配 (労働者としての プライ)	学術調査資料	マジック・ビジョン	ビルマとの戦争に備えて プライたちがマハナク運河を掘っている

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考
国家と社会： 社会的統一性 ● 市民の三界 経観 ● 仏陀の輪廻 十生 ● サラブリの 仏足跡への 王の行列	三界経	実物 (壁画または コピー折本)	スライド	
	宇宙観の象徴的 チャート	実物	天井画	
	仏陀の輪廻十生	実物	スライド	
	仏足跡への王の 行列	学術調査資料	グラフィック・パネル	
	サラブリの 仏足跡	学術調査資料	グラフィック・パネル	
	仏足跡に対して の王による儀式	学術調査資料	グラフィック・パネル	

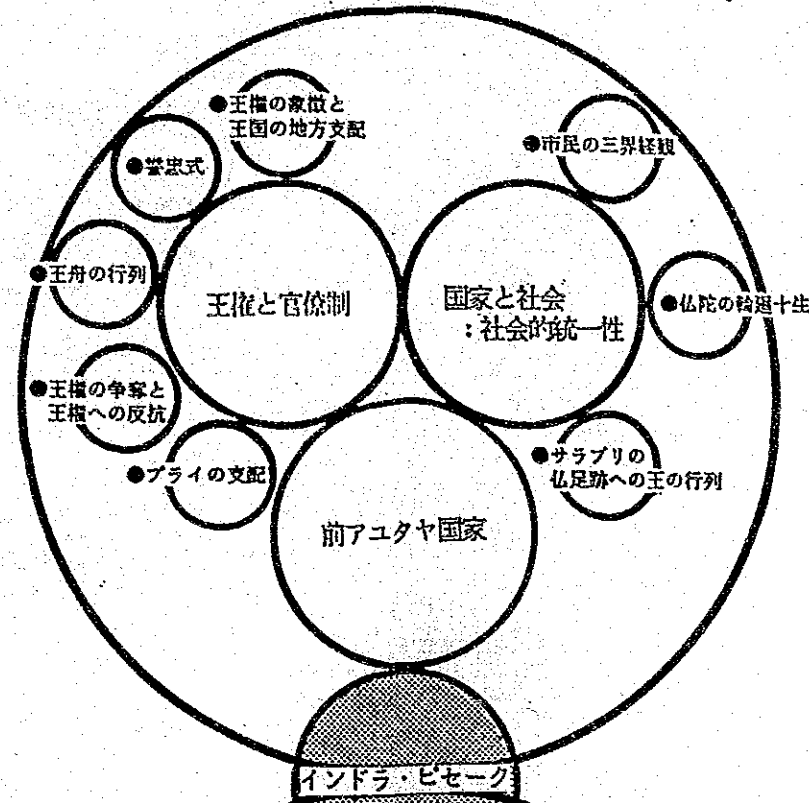
テーマIV アユタヤの村の生活

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考	
農民社会の生活	壁画のある寺院の壁	実物	レプリカ		
	冠水期の村	学術調査資料	模型	1/50から1/80	
	村の自然 ・川の生き物 各種	学術調査資料	床面タイル		
	・鳥 各種	学術調査資料	天井画		
ライフ・サイクル1 ● 幼少期	ロン・クラ・ドン (竹盆での子供の養育)	学術調査資料	グラフィック・パネル		
	タム・クアン・デュアン				
	弁髪	学術調査資料	ミニチュア・ジオラマ		
			グラフィック・パネル		
	子供の遊び	学術調査資料	ミニチュア・ジオラマ		
		実物 (玩具、遊具)	実物		
	寺での勉強	学術調査資料	ミニチュア・ジオラマ		
	● 成人	得度式の行列	実物(壁画)	レプリカ	
		得度式のタム・クアン儀礼			
	● 結婚	タイの結婚式	学術調査資料	ミニチュア・ジオラマ	
			実物 (キンマ道具)	実物	
			実物 (結婚に関する文献資料)	グラフィック・パネル	

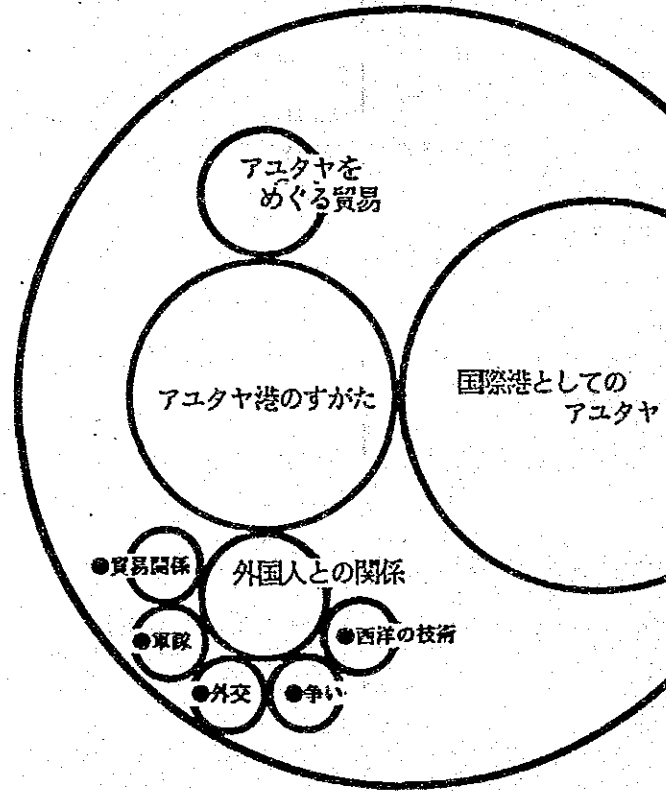
サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考
家の内部	床下	学術調査資料	復元模型	
		実物 (農具など)	実物	
	寝室	学術調査資料	復元模型	
		実物 (調度品など)	実物	
	台所	学術調査資料	復元模型	
		実物 (調理器具など)	実物	
農耕	稲作	学術調査資料	グラフィック・パネル	
災禍	戦争と自然災害	学術調査資料	グラフィック・パネル	

サブテーマ	アイテム	原形態	展示形態	備考	
● ライフ・サイクル2 ● テート・マハー・チャート	タンマート	実物	実物	抽象化した人形を座らせる	
	僧の読経	学術調査資料	音響		
	ジャータカ	実物	グラフィック・パネル		
	・影絵遊び ・人形劇	実物 (娯楽の遊具)	実物		
	・影絵遊び ・人形劇 ・タイ古典舞踏 (コーン) ・グラビー・クラ ボーン ・レスリング ・タイ・ボクシング ・闘鶏	実物(壁画)	レプリカ		
	舟歌遊び	学術調査資料	グラフィック・パネル 音響		
	楽器	実物	実物		
		実物 (本の挿画)	グラフィック・パネル	[デュラルベール]所収	
	● 医療	呪術	学術調査資料	ミニチュア・ジオラマ	
		薬品	実物	実物	
マッサージ		実物	グラフィック・パネル	テキスト、ツボの解説書	
● 死と死後	葬式	学術調査資料	ミニチュア・ジオラマ		
	ブラ・マライ物語	実物	グラフィック・パネル		

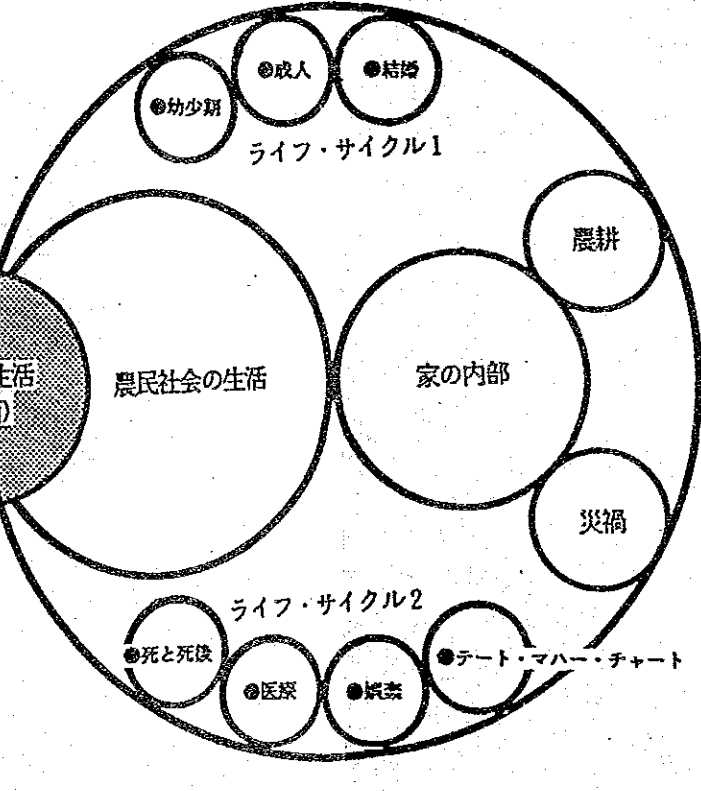
テーマ III 中央集権国家としてのアユタヤ



テーマ II 港町としてのアユタヤ



テーマ IV アユタヤの村の生活



テーマ I イントロダクション: 首都としてのアユタヤ



4-1-4 展示諸技術計画

1) 解説計画

展示室内には、順路の表示、展示の一部としてのグラフィック情報の提供、展示物の解説などの役割を果たす文字・グラフィック表示が必要である。

文字・グラフィック表示が担うべき情報は多岐にわたるが、これらは、情報の種類、レベルに従って整理され、それぞれことなったモジュールのパネルに割り振られる。そうすることによって、観客は得たい種類、レベルの情報を容易に検索でき、それらを混乱なく理解することができる。当計画においては、文字・グラフィック情報の表示形態として、以下のタイプ、モジュールを設定する。

- テーマ・サイン

テーマⅠからテーマⅣまでの各展示室においてそれぞれの展示テーマを表示し、展示全体のおおまかなストーリー・順路のなかでの各展示室の位置づけを理解させる。

- コーナー・パネル

各展示室内に構成されるいくつかの展示コーナーごとにコーナー・パネルを設置し、各コーナーでの展示内容の概略を説明する。

- グラフィック・パネル

展示室内で使用し、文字、写真、図版などによって展示の補完情報を提供したり、大型の絵や写真などを室内の環境演出に用いる。

- キャプション・プレート

各展示コーナー内に数箇所設置する。文字とともに図版も用い、コーナーの展示内容に関連する小さなトピックスの紹介、実物・レプリカ・模型等からなる展示物群の解説等を行う。

- ネーム・プレート

展示物ひとつひとつに対して設置し、各称等を表示する。簡単な解説を要する場合も想定し、大小2タイプを用意する。

なお、文字表示に関しては、タイ側の意向により外国人来観者の便宜を考慮し、タイ語・英語の並記とする。

2) 造型物計画

展示の中では、実物の展示資料ばかりでなく、レプリカや模型、ジオラマのような造型物を展示資料として取り入れることが望まれる場合が多い。

1. 学術、芸術等の上で貴重な価値をもつが、実物の展示が不可能な場合、精密復元模型(レプリカ)を作成し、展示する。

2. 建築、環境等スケールの的に実物展示が不可能であるが、建築空間・環境空間全体からの情報を伝達したい場合、スケールを縮小した模型・ジオラマ等によって情報提供を行うことができる。
3. 建築や環境等のなかから、展示意図にしたがって特定の一部分を原寸(またはそれに近い縮小率)で復元する。

当計画においては、現在下記の項目を造型物として計画する。

テーマⅠ

王宮模型

ワット・チャイ・ワッタナラーム模型

エレファント・クラール模型

テーマⅡ

タイの商船(ジャンク)模型(1/10)

各国の商船模型(1/50 4隻)

港(ボン・ベット)ジオラマ

国内流通品レプリカ

各国からの輸入品レプリカ

タイ・ジャンクと中国人乗組員に関する文献レプリカ

諸外国傭兵部隊の行軍を示すコーイ折本レプリカ

アユタヤから日本への公文書レプリカ

日本からアユタヤへの公文書レプリカ

バンコクの西洋式要塞の平面図レプリカ

古地図レプリカ

科学的装置レプリカ

テーマⅢ

寺院の門復元模型

前アユタヤ国家各都市のシンボル小型模型(12件)

王座縮小模型

王室宝器(冠、剣、水差し)縮小模型

誓忠式の楽器(法螺貝・ドラム・ドラ)レプリカ

誓忠式の道具(水盤・剣・弓)レプリカ

王舟の行列マジックビジョン

プライの支配マジックビジョン

テーマⅣ

壁画のある寺院の壁レプリカ

冠水期の村模型

弁髪ミニチュア・ジオラマ

子供の遊びミニチュア・ジオラマ
寺での勉強ミニチュア・ジオラマ
得度式を示す壁画のある壁レプリカ
タイの結婚式ミニチュア・ジオラマ
農家床下復元模型
農家寝室復元模型
農家台所復元模型
娯楽を示す壁画のある壁レプリカ
呪術ミニチュア・ジオラマ
葬式ミニチュア・ジオラマ

3) 映像音響計画

映像や音響による展示は、以下の様な効果を生む。

- 限られたスペースのなかで密度の高い情報提供を行うことができる。
- 観客の参加性を高め、楽しみながら学習することができる。
- 展示空間に表情の変化をもたらし、環境演出に大きな役割を果たす。

当計画では、下記の映像および音響展示を計画する。

テーマⅠ

- アユタヤ(スライド装置、ナレーションなし)
大型地図の上部に張られたスクリーンに以下の内容のスライドを投影する。
 - ・ ラーマ5世時代のアユタヤ
 - ・ 外国人が描いたアユタヤプロジェクターは1台とし、10点程度のスライドが、各30秒程度の時間でフェード・イン、フェード・アウトを繰り返す。

テーマⅢ

- 誓忠式の楽器(音響)
法螺貝、ドラム、ドラなどの楽器の音を中心とする誓忠式の臨場音を再現し、誓忠式をモチーフとした大型グラフィックパネルの付近で効果音として放送する。他の展示コーナーへの影響を考慮し、指向性の高いスピーカーを使用する。
- 王舟の行列(マジックビジョン、ナレーションつき)
川をはさんで対岸にはアユタヤ島の風景が、こちらがわには庶民たちの生活の場が立体表現されている。この中に、豪華な王舟の行列が映し出され、ゆっくりと動く。(上映時間2~3分程度)

- プライの支配(マジックビジョン、ナレーションつき)
背景には王宮とワット・プラ・フィーサンベットが立体表現される。そこに、多くのプライたちと監督者が映し出される。プライたちは、監督者の指示に従い、ビルマとの戦争に備えるため、運河を掘る作業に従事している。
(上映時間2~3分程度)
- 三界経、仏陀の輪廻十生(スライド装置)
三界経と仏陀の輪廻十生の物語(具体的形態としては壁画・コーイ折本)を題材としてストーリー性のあるソフトを作成する。画像以外にも必要な情報があれば適宜字幕スーパーを使用して解説する。(上映時間10分程度)

テーマⅣ

- テート・マハー・チャートにおける僧の読経(音響)
テート・マハー・チャートの展示コーナーでは、説法台の実物展示(抽象化された僧の人形をのせる)を行うが、この付近に効果音として僧の読経の声を流す。他の展示コーナーへの影響を考慮し、指向性の高いスピーカーを使用する。
- 舟歌遊び(音響)
ゲート状の展示装置を観客が通り抜ける際に、両側の柱に仕込まれたスピーカーから舟歌遊びの歌が聞こえる。

4) 空間演出計画

展示は、実物・レプリカ・模型・ジオラマ・グラフィック・映像・音響などの展示物、それらを陳列・演示するためのケースやステージ、さらにそれらを取り巻く展示空間の照明・色彩・音響等からなる環境演出など、さまざまな要素の統合の上に成り立つ。望ましい展示空間を実現するためには、これらの各要素に十分留意し、さらに総合的な環境構成の視点に立脚した計画立案が不可欠となる。

以下は、内部環境の景観・雰囲気を決める空間演出計画の基本的な方針である。

- 企画コンセプト上展示全体の要となるテーマⅠ展示室から三つの展示室(テーマⅡ~Ⅳ展示室)がパノラマ的に展望できる構成とする。これら三つの展示室からは、それぞれの展示テーマを集約したシンボル展示が記号的にテーマⅠ展示室へ向かって迫り出してくる。
- 照明計画は、人工照明を主体に意図的な照明演出を図るが、展示資料の保存に支障をきたさない程度で自然採光を採り込む場合もある。

- 展示空間内部の床・壁・天井及び展示装置(展示ケース・展示ステージ・パネルなど)は基本的に同一の素材・モジュールを使用し、統一性のあるデザイン展開とするが、詳細部分では各展示テーマの特性を生かした演出を積極的に採り入れ、各展示室ごとの独自性を表現する。
- 色彩計画に関しては、石、木、金属などの素材のもつ色調・色感を大切にし、特別の意図がない限りいわゆる“派手でけばけばしい”彩色は避ける。

5) 配布物計画

開館にともなって、来観者への配布に供する印刷物が数種類必要となる。

1. アユタヤ史解説教材

展示によるアユタヤ史学習をより確かなものとするために、展示構成に沿った形でアユタヤ史の解説書を提供する。展示の手引としても利用でき、その後の学習にも役立つ。

教材の内容は、以下の通りである。

- 展示構成に沿ったアユタヤ史解説

第1章～第4章で構成され、それぞれの章が展示テーマⅠ～Ⅳに対応する。各章での解説も、展示物を中心とした話題で展開する。

- 当館の施設概要

当館がどのような施設から構成されているか、それぞれの施設がどんな機能を持つか、どのような利用のしかたがあるかなどを説明する。

以上をページ数としては200ページ程度を目安にまとめ、タイ語版の他に英語版、日本語版をも併せて製作する。

このようなアユタヤ史解説教材は、研究教育機関としての当館の性格上不可欠のものであり、当計画の一環として準備する必要がある。

2. パンフレット

3. リーフレット

券売所で発券と同時に全ての来館者に配布するパンフレット(施設全体の案内図、展示構成の説明、施設利用の手引などを記載)や、観客が自由に持ち帰れるよう展示室内の数箇所に置くリーフレット(展示の補完情報としてより詳細な解説・データ等を記載)などは、来館者が展示を見る上の便宜に供するものとして重要である。

4-2 施設基本計画

4-2-1 計画地の概要

1) 敷地の位置及び現状

(1) 位置

アユタヤ歴史資料館の建設予定地は、アユタヤ県コンリアンの旧日本人町跡地内にある。敷地はアユタヤ市内から約2kmほど南に行った所に位置しバンコック市の中心部より北に車で約1時間20分の距離にある。敷地の西側はチャオプラヤ川に面しており、東側前面道路(幅員約6M)より敷地にアプローチする。北側の敷地には製粉工場が立地している。

旧日本人町跡地は泰日協会の所有の土地であるが、本歴史資料館の建設のためにアユタヤ県はその土地の使用権を泰日協会よりすでに入手済である。



(2) 敷地の現況

旧日本人町跡地は東西約120M,南北約90Mの台形状の敷地形状で、規模は11,200m²である。敷地西側のチャオプラヤ川と東側のアクセス道路を結ぶように一直線の歩道が敷地のほぼ中央を東西に貫いている。このコンクリート舗装された歩道の両側の地面は低く、チャオプラヤ川の増水期には、冠水したことが過去に何度か起っている。現在敷地内には、旧日本人町跡碑、灯籠、鳥居、旧日本人町と解説碑、休憩所、便所、管理人家屋等が建っている。教育省芸術局との協議の結果、考古学上の観点から、敷地の西側約3分の1及び中央の歩道を含む巾8Mの東西にわたる部分は、遺跡として保存すべ

き区域として、恒久的施設の建設は行ってはならないことが確認された。又敷地 東側約3分の2の歩道をはさんで、北側及び南側の部分は、歴史資料館等の建設用地として利用することに考古学上の問題はないことが芸術局により確認され、泰日協会は利用許可を芸術局より入手済みである。

また、アユタヤ県は、泰日協会より資料館用地としてこの部分を使用することについて了解を得ている。

(3) 敷地の造成

大雨時のチャオプラヤ川の洪水を考慮し、旧日本人町跡地全体を既存の敷地中央の歩道のレベルまで、タイ側によって盛土が行われる。又既存の旧日本人町跡碑、灯籠、鳥居等は敷地の造成が終わるまで、泰日協会が一特別の場所で保管し、その後敷地全体計画が決まった段階で適切な時期に所定の位置に設置する。

(4) ボーリング調査結果

第2次事前調査の時点で、敷地内3ヶ所のボーリング調査が行われている。ボーリング柱状図よりみて、支柱杭として期待できる地層は現地盤の地下約20mにある砂層と思われる。(資料編 V 参照)

(5) アクセス道路

アユタヤ市内より旧日本人町跡地までの途中は舗装されているが、その先約2kmは未舗装である。従って歴史資料館の建設開始までには、アクセス道路の改修及び舗装等の整備がアユタヤ県により行われることが確認されている。

2) 敷地周辺のインフラストラクチャー整備状況

(1) 電気

現在前面道路には配電線はない。従って前面道路に22kV配電線を新設し、敷地内にトランス(160kVA規定)を設置し、施設への電力供給を行う必要がある。トランスの定格電圧は22kV/400-230Vである。

なお、工事中の仮設電力は敷地北側に隣接する製粉工場にきている低圧400V/230Vラインを延長することにより可能である。

(2) 飲用(雑用)水

現在前面道路には上水道の埋設配管はなく、又将来も設ける計画はない。従って敷地内に深井戸(100~150m)を掘り、浄化装置にて処理し供給する必要がある。近隣の深井戸では、深さ100m、取水量80m³/日の例が3例あり、本計画の使用量約(20m³/日)にてらして十分な取水が見込める。

(3) 排水

敷地周辺には公共下水道はない。従って敷地内で排水処理を行い、チャオプラヤ川に放流することになる。排水の水質基準についてはONEB (Office of National Environmental Board)の基準に従う。

(4) 電話

敷地の前面道路には現在電話線はない。従ってTAT (Telephone Authority of Thailand)に申込み、前面道路に電柱を設けそこから引込むことになる。

(5) ガス

LPGガスステーションが敷地の近くにあり、そこからガスシリンダーによる供給を受けることが出来る。自動車用のステーションも兼ねているので将来ともLPGの供給については問題ない。

4-2-2 設計方針

1) 一般事項

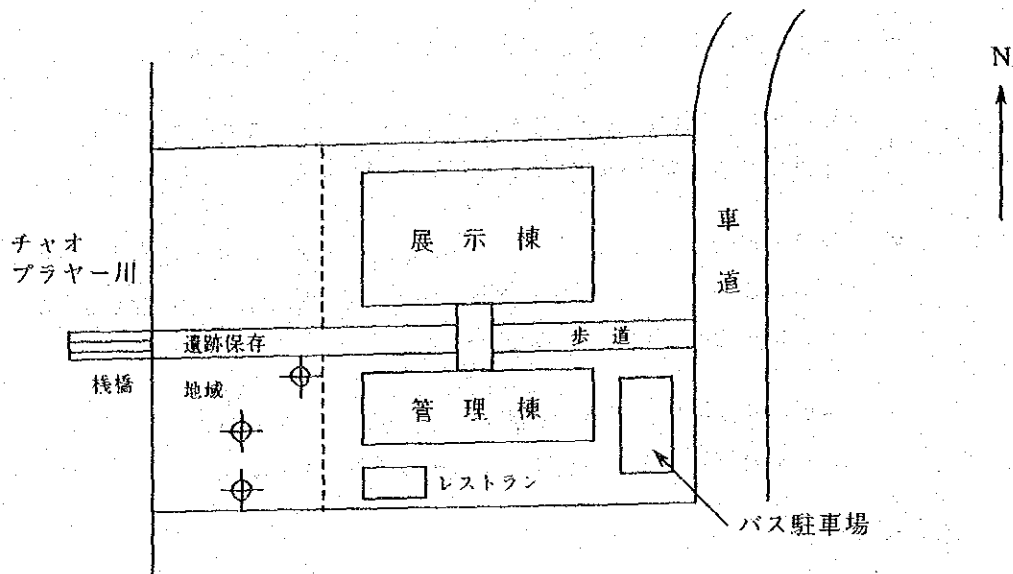
- タイ国の歴史、文化を展示するにふさわしい建築設計を行う。
- 自然環境、周辺環境を十分考慮した設計とする。現地の気候、風土、立地条件及び生活習慣等の条件を十分考慮し、これらに適応した設計とする。
- 現地の実情に合った使い易く、維持管理が容易な設計とし、メンテナンスコストがなるべくかからない施設とする。自然通風、換気、自然採光を活用し、機械設備への依存を少なくする。
- 現地の建設技術、材料、工法を十分把握し、建設工費ができるだけかからない設計及び建設工事が無理なく行える設計とする。

2) 特殊事項

- 見学者の動線(人の動き)と資料の搬入動線を明確に分離できる配置とし、歴史資料館として機能的に明快な平面構成とする。
- 展示物の模様替え、あるいは特別展示(随意展示)が行えるよう、展示空間にはフレキシビリティをもたせる必要がある。又、展示空間の演出も重要なポイントである。
- 館の活動が活発になれば必ず増築の可能性があり、特に収蔵庫の増築の必要性が生じるため、それが可能な予定スペースを確保しておく。
- 自然条件(通風、採光)を最大に生かし、維持管理の負担を出来るだけ減らす設計をこころがける必要があるが、一方展示物の保存の面からの考慮(直射日光の防御、パウダー状のラテライト、製粉工場からの粉塵の防御等)及び諸外国の博物館からの借り出し展示物の保管対策等に対して、必要と思われる空調設備の検討を行う。
- 建築設計と展示設計はあくまでも並行して行われなければならない。展示構成を踏まえ、どのような内容、資料が展示されるかの理解を深めながら建築空間と展示空間とをうまく融合させて計画する。
- 歴史資料館施設はそれ自体が展示のうちであり、特に外観に関しては十分な検討を要する。単なる様式にとらわれず、歴史資料館としての機能、アユタヤの歴史、文化及び気候、風土に適し、かつ周囲の環境に合った設計にする必要がある。

4-2-3 基本計画

1) 敷地利用計画



- 敷地利用計画は、本資料館の内容、外観と調和を保つとともに、遺跡保存地域の保全を図る観点から計画する。
- 敷地西部の遺跡保存地域及び東西に設定された歩道部分には、建築の躯体等の構造物は設けない。
- 敷地を東西に走る歩道は、バス、乗用車、船による来館者のため、舗装された、木々の緑をちりばめられた快適な屋外空間とする。
- 敷地内歩道により南北に分断された建設可能地域を有効利用するため、北側に展示室、多目的室等の中心施設を、南側に管理棟を配置する。これにより、敷地東部にゆったりした前庭を、また北東部には適切な規模のサービスヤードを確保することができる。
- 敷地東部側アプローチ部分及び西側遺跡保存地域は緑のランドスケープを用い、又管理棟南側は緑または水のランドスケープによって建物及び周辺環境に調和させる。
- バス駐車場を敷地南東部に設け、乗用車の駐車場は、将来近隣にまとまった規模の駐車場が確保されるまで(泰日協会の工事範囲)、展示室一階ピロティ部分に設ける。

- 収蔵庫から展示室への資料の搬入は、小規模なものは適切に配置された階段室により、大規模な資料は、サービスヤードに設置されたリフターあるいはフックにより直接2階に搬入される。

3) 印象的な展示室空間

- エントランスロビーから展示室に入ると、直線的に配置された展示室Ⅱ、Ⅲ、Ⅳがパノラマの様に一望に見渡せ、かつ展示室Ⅰが全テーマに関連づけられる様な展示室構成とする。

4) 身体障害者に対する配慮

- 段差のついた展示室はもちろん、2階に配置された展示室に至る動線もゆるい勾配を設ける。
- 更に身障者専用便所、展示案内他、内外から訪れる身障者にも安心して利用して頂ける様十分な配慮をする。

(2) 断面

- 平均地盤は、現在の歩道の最上部レベルより数十センチ上げるものの、万が一のチャオプラー川異常氾濫を考慮し、メインフロアーを2階部分に設定し、一階部分は収蔵庫を除いてピロティとし、将来の収蔵庫、学芸員室等の拡張計画に対処できるものとする。
- 展示室Ⅰと展示室Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとはレベル的に1メートル内外の段差をつけ、各展示室から展示室Ⅰが充分把握できる断面構成とし、かつダイナミックな空間構成となる様配慮するものとする。

(3) 環境に調和した外観計画

- 今回の屋根架構計画にあたり、考慮した観点は、タイの風土、敷地周辺環境、博物館としての建物の機能、アプローチからの印象・シークエンスである。

以上をふまえ(A)タイ様式の屋根(B)切妻屋根(C)ポールド屋根(D)陸屋根プラス一部タイ様式屋根の4案の模型を作製し比較検討した。(資料編Ⅵ参照)

上記案についてタイ側建築家の助言に基づき検討の結果(D)陸屋根プラス一部タイ様式屋根は、タイ風土、周辺環境等の上記の観点から、最も当歴史資料館にふさわしいものであると判断される。特に一部正面側にと

り入れられたタイ風屋根は陸屋根の中にあつて強調され、全体としての建物の印象、建物のアプローチに伴うシーケンスにも大きく貢献するものと考えられる。

(4) 仕上計画

内外装仕上の計画にあたっては、建物の機能、現地の建設状況、施設の立地条件、周辺環境建物、各室の使用用途、工機、工法、資材の調査条件等を考慮し、選択する。この歴史資料館の設計にあたっては特に以下の点に留意する。

- a) 不特定多数の来館者が来るため、耐久性、安全性のあるもの。
- b) 文化施設であるため美観に優れ、落ちつきと風格があること。
- c) 展示・収蔵に必要な機能、性能を満足するもの。
- d) 日常のメンテナンスが容易なもの

1) 外装計画

- 屋根 : 銅板一文字葺(外断熱処理)
- 外壁 : レンガ化粧積、一部大理石貼
- テラス床 : セッ器質タイル
- 外部建具 : アルミサッシュ(電解着色)、一部ステンレス建具(自然発色)

2) 内装仕上

室名	床	巾木	壁	天井
エントランス ロビー	花崗石	花崗石	花崗石	岩綿吸音板ペンキ
展示室Ⅰ～Ⅳ	ノンスリップ ゴムタイル	木製ペンキ	硬質塩ビフィルム	木製・集成材木造 トラス表わし
多目的室	ノンスリップ ゴムタイル	木製ペンキ	硬質塩ビフィルム	木製・集成材木造 トラス表わし
事務室	ビニル床 カーペット	ビニル巾木	モルタルペンキ	岩綿吸音板
館長室	カーペット	木製ペンキ	クロス貼	岩綿吸音板ペンキ
会議室	カーペット	木製ペンキ	クロス貼	岩綿吸音板ペンキ
情報センター	ビニル床タイル	ビニル巾木	吸音パーティクル ボード	岩綿吸音板
学芸員室	ビニル床タイル	ビニル巾木	モルタルペンキ	岩綿吸音板
暗室	ビニル床タイル	ビニル巾木	モルタルペンキ	岩綿吸音板ペンキ
収蔵庫	木製フローリング (二重床)	木製ペンキ	板貼り(二重壁)	岩綿吸音板

室名	床	巾木	壁	天井
工作室	防塵塗装	ビニル巾木	モルタルペンキ	岩綿吸音板
空調機械室	防塵塗装	モルタル	グラスウール板	グラスウール板
便所	タイル	タイル(役物)	100角タイル	石綿板ペンキ

3) 構造計画

(1) 計画方針

- 1) タイ国の国情・風土及び建物の規模・形態・使用目的に最適な構造方式を採用する。
- 2) 現地における材料の供給、材料の品質、建築技術などを十分に考慮した構造方式として、構造材料、工法は特に問題がない限り、現地のもので採用する。
- 3) 経済的で耐久性のある構造方式とする。

(2) 構造設計

- 1) 構造方式は、原則としてタイ国において一般的な構造方式である鉄筋コンクリート造ラーメン構造を採用する。壁体はレンガ、ブロックを骨組の中に組積したものとする。
- 2) 基礎形式
ボーリングテストによると当敷地は地盤条件が悪いので、建物の基礎形式は杭打基礎とする。杭長、杭耐力は実施設計時の建物重量を確認後設定する。
- 3) 構造計算は日本建築学会の諸設計基準に準拠し、作用応力設定法によって行う。構造材料の許容応力度についてはタイ国及び日本の基準を参考にして、さらに現地の施工程度、品質のバラツキなどを考慮して設定する。

(3) 設計荷重

建物に作用する外力、荷重などの設計荷重についてはバンコック首都建築条令第63条“By laws of the Bangkok metropolis, Re; Control of the Construction of Building, 1979” NG, 1979”に準拠する。

- 1) 固定荷重
 - a. 鉄筋コンクリート 2.4 t/m³
 - b. 構造用鋼材 7.85 t/m³
 - c. 煉瓦、ブロック 1.9 t/m³
 - d. その他仕上材料等の重量は実施設計時に設定する。

- 2) 積載荷重
- | | |
|--------------------------------------|---------------------------|
| a. 屋根(一般) | 50 kg/m ² |
| b. 屋根(コンクリート庇) | 100 kg/m ² |
| c. 便所 | 150 kg/m ² |
| d. 事務室、会議室、廊下、階段 | 300 kg/m ² |
| e. 展示室 | 500~800 kg/m ² |
| f. 図書室、倉庫、機械室
ワークショップ | 500 kg/m ² |
| g. 特別な展示などで大荷重のかかる部分については詳細に検討して定める。 | |

3) 風荷重

風荷重はバンコック条令による荷重を採用する。

高さ	風圧力
10 m 以下	50 kg/m ²
10 m~20m	80 kg/m ²
20m~40m	120 kg/m ²

注) 風荷重は日本に比べて約1/3と小さく、2階程度の本建物では構造設計上無視できる値である。

4) 地震荷重

タイ国のこの地域には過去においてめざましい地震が発生していないので本建物の設計に地震力は考慮しない。

(4) 構造材料

主要構造材料は下記の使用とする。

- 鉄筋 異形鉄筋SD30 (TIS規格)
- コンクリート $F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$ (4週、シリンダーテスト)
- セメント 普通ポルトランドセメント (ASTM規格)
- 鋼材 SS41 (JIS規格)又は同等品
- 杭 PC杭

4) 設備計画

(1) 計画方針

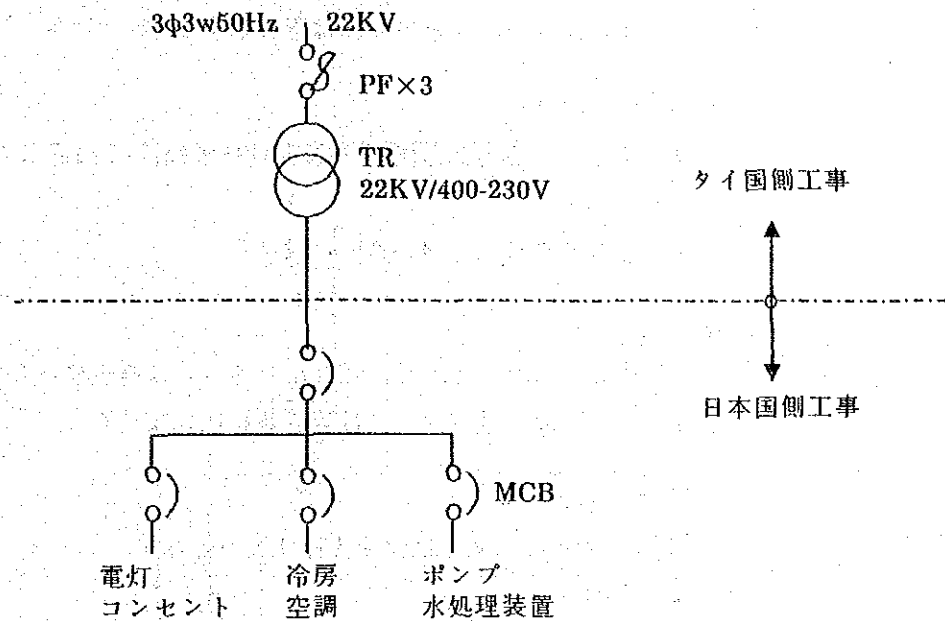
- 資料館にふさわしい計画とする。
 - 見学者が安全で快適に参観出来る環境とする。
 - 展示物にダメージを与えない環境とする。(温・湿度、ほこり、かび、虫等に対し)
 - 展示物の模様替えに対応できる設備計画とする。

- 2) タイ国の実情、敷地条件に合った計画とする。
 - タイ国の関連法規に、準拠するが、適用法規がない場合には、日本の規準を参考とする。
 - 現地の気象条件、生活習慣に適合した設計とする。
- 3) 維持管理を考慮した計画とする。
 - 建設費、運転費が経済的な設備計画とする。
 - 運転操作、維持管理、保守管理ができるだけ単純な設備計画とする。
- 4) 機器材料の選定に考慮する。
 - 機器や材料は、できるだけ標準化されたものを使用し、部品の交換や修理が容易な設備計画とする。
 - 機器や材料はTIS規格に合うものを使用し、日本から調達するものはJISに合うものを使用するよう努める。

(2) 電気設備計画

1) 電力引込み及び設備負荷

電力は敷地前面の幹線道路の22kV高圧線より引込む引込みと受電変圧器までは、タイ国側によって用意される。この変圧器より建家内電気室までは電力ケーブルを地中に布設して低圧を引込む。



本施設の設備負荷容量はおおむね下記のように推定され、合計160 KVAと見込まれる。また電力デマンドは80 KW程度と予想される。

- | | |
|-------------|---------|
| 1. 電灯コンセント | 20 KVA |
| 2. 冷房、空調、換気 | 100 KVA |
| 3. 衛生ポンプ類 | 40 KVA |

2) 受変電・配電設備

受電変圧器の容量は160 KVA程度でこれを屋外に設置する。建家内の電気室に低圧配電盤を設けて館内各所に配電する。変圧器の二次電圧は3相4線400/230Vとし空調機器類は3相400V, 電灯コンセントは単相230Vにて供給する。変圧器容量は館内を空調(冷房)するのに十分な容量を見込む。

3) 低圧幹線

電気室低圧配電盤より電灯分電盤、動力盤等に至る幹線を設ける。幹線材料としては電線又は架橋ポリエチレンケーブルを使用する。

4) 照明コンセント設備

照明器具は原則として蛍光灯器具とする。

主な室の設計維持平均照度はおよそ下記のとおりとする

- 展示室 300ルクス
- 事務室 300ルクス

5) 動力設備

動力盤より空調機器、ポンプ等に至る配管配線を行う。機器類の故障及び水槽類の満水・減水等の異常を表示する。

6) 自動火災報知

- 各室に火災感知器(煙感知器又は熱感知器)を設置し火災の早期発見に努める。
- 主受信機は、管理事務室に設ける。

7) 放送

- 各室にスピーカを設け呼び出しあるいは連絡放送を行う。
- アンプ本体及びマイクは管理事務室に設ける。

8) 視聴覚設備

多目的室に設備する視聴覚機材は次のとおり。

- OHP
- 35 m/m スライドプロジェクター

9) 電話設備

- 敷地前面道路より電話局線を引込む。
- 分散中継形電話交換機を設ける。局線3本、内線10本程度とする。

10) 避雷針設備

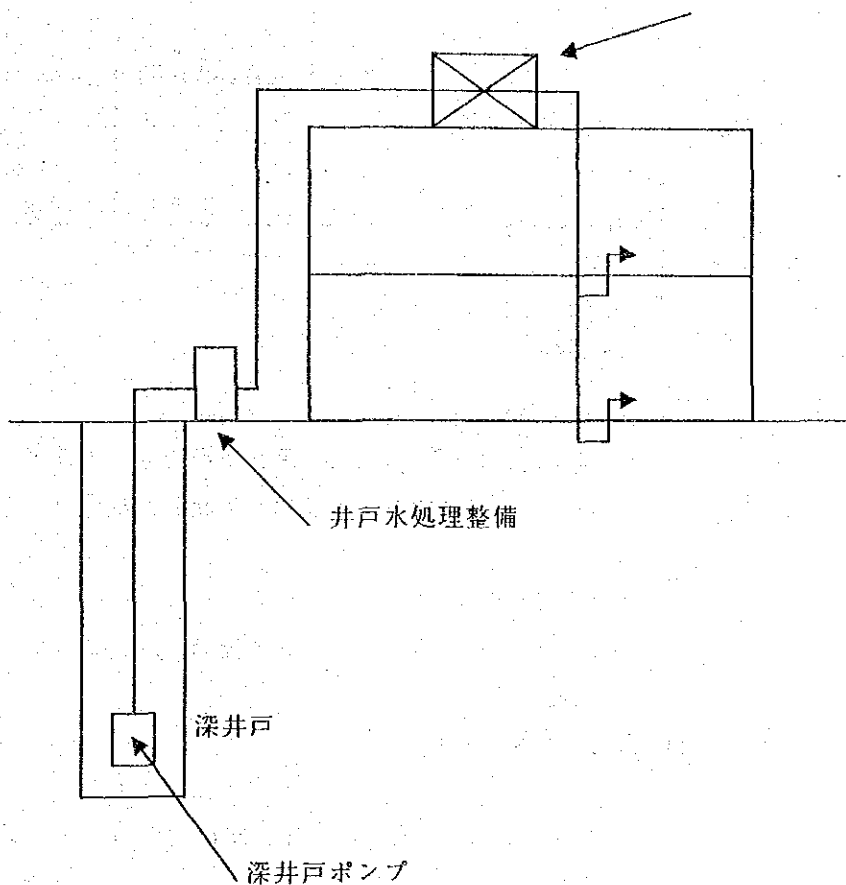
- 落雷による災害を避けるために屋上に避雷針を設置する。

(3) 給排水衛生設備計画

1) 給水設備

さく井し、井戸水を汲み上げ、砂ろ過し、ポンプにて高置水槽まで揚水する。以降、必要箇所へ動力にて給水する。計画推量は15 m³/日程度とする。飲用水は、市販のボトル設置のウォータークーラーにて設備する。

高置水槽量 15 m³



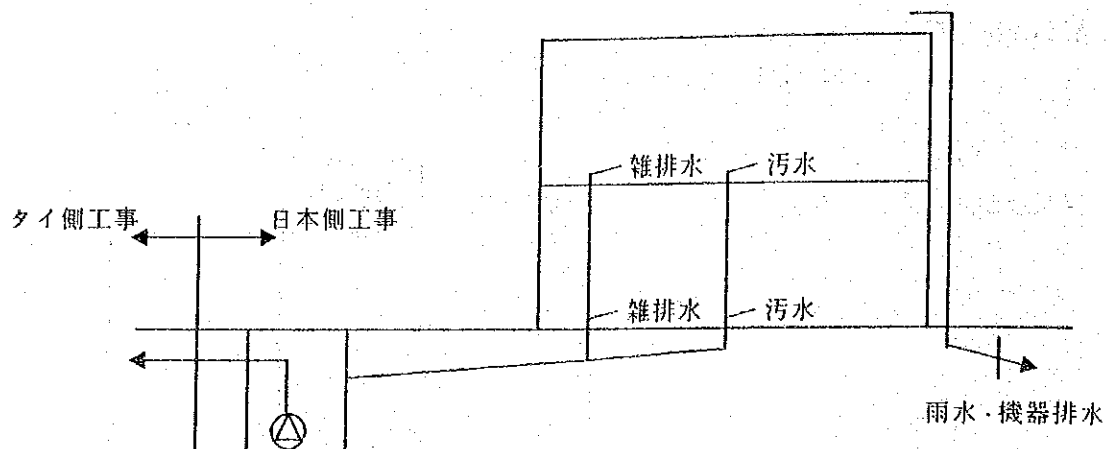
2) 給湯設備

飲用の給湯は電気式ホットプレートを設置し、やかんにより湯を沸す方式とする。

3) 排水通気設備

重力方式にて排水し、汚水・雑排水合流方式とする。雨水、機器排水は単独、放流する。

浄化槽は屋外にFRP製の合弁式浄化槽を設け最大排水量は15 m³/日とし、BOD放流基準60 ppm以下とする。



4) 衛生器具設備

洗面所、便所に洗面器、鏡、清掃流し、大便器、小便器を設ける。大便器は、タイ式のものの使用も考慮し、洗浄はフラッシュバルブ方式とする。

5) 消火設備

屋内消火栓設備を設け、タイ国の指導に基づいて据えつける他、小型消火器を設ける。

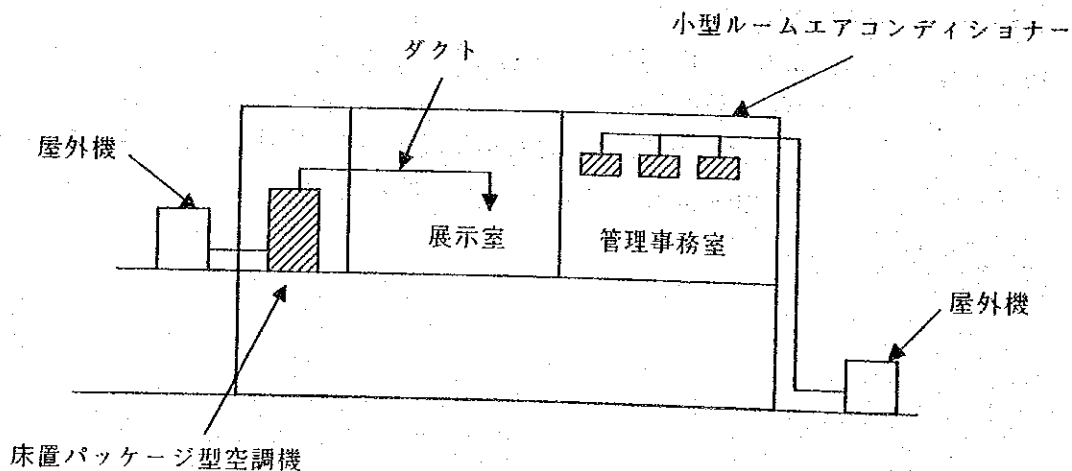
(4) 空調、換気設備計画

1) 空調設備

下記に示す2ゾーンに分け、空冷式のパッケージエアコンディショナーを設ける。

(設置温湿度条件)

- a. 展示室系 : 27°C, 50%
- b. 管理事務室系 : 26°C, 50%



2) 換気設備

展示物用倉庫は、給排気設備の他、除湿機を設置し、多湿となることを防ぐ。ワークショップは給気及び排気設備を設ける。便所は排気設備のみ設ける。

換気回数の日安は下記のとおり。

展示物用倉庫 : 10回/Hr

便所 : 10回/Hr

ワークショップ : 5回/Hr

チャオプラヤ川

60,000

40,500

62,600

12,800

棧橋

遺跡保存区域

銘板

日本人町跡地の碑

鳥居

緑のランドスケープ

アユタヤ歴史資料館

リフター サービスヤード

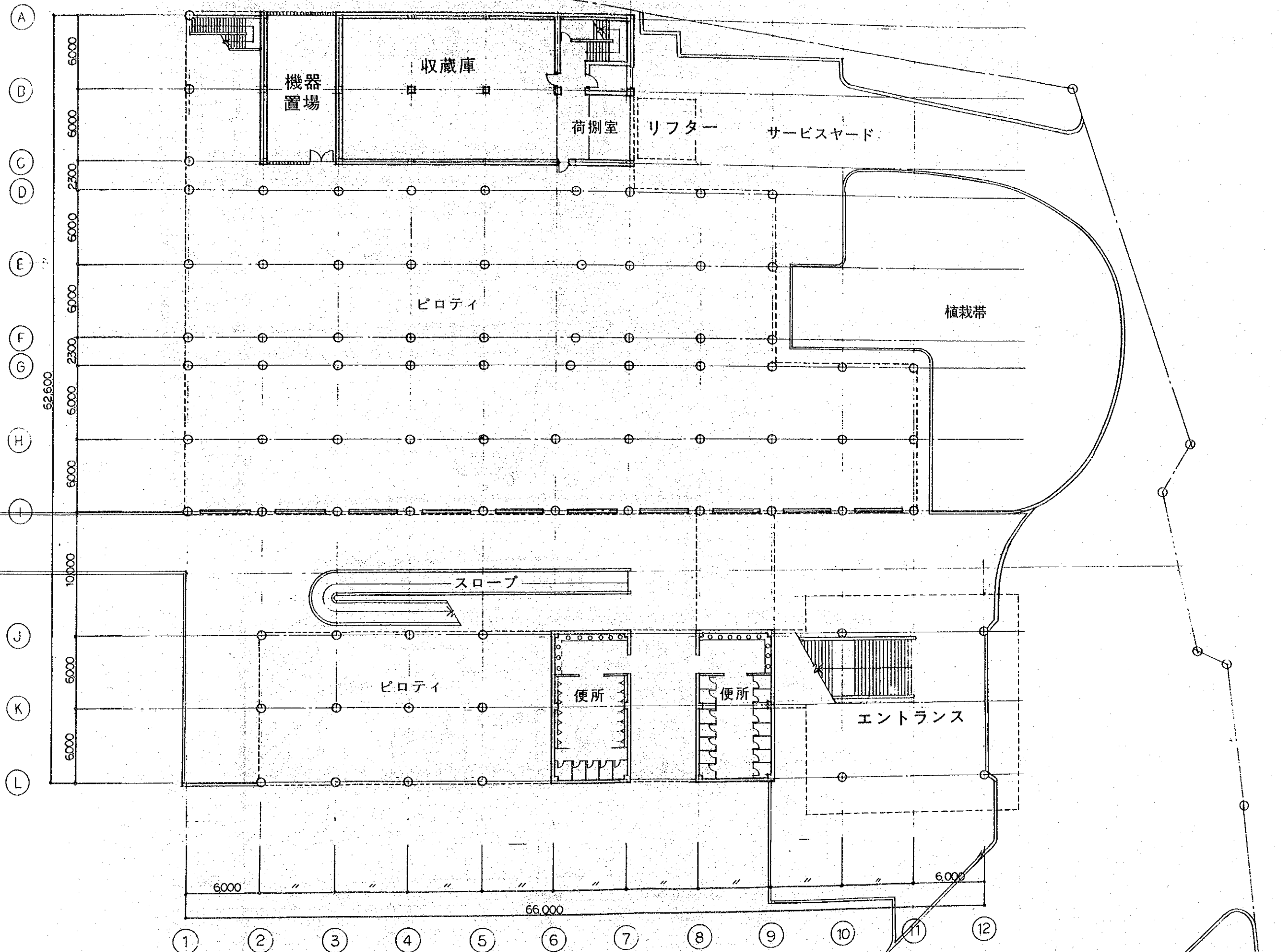
植栽帯

バス駐車場

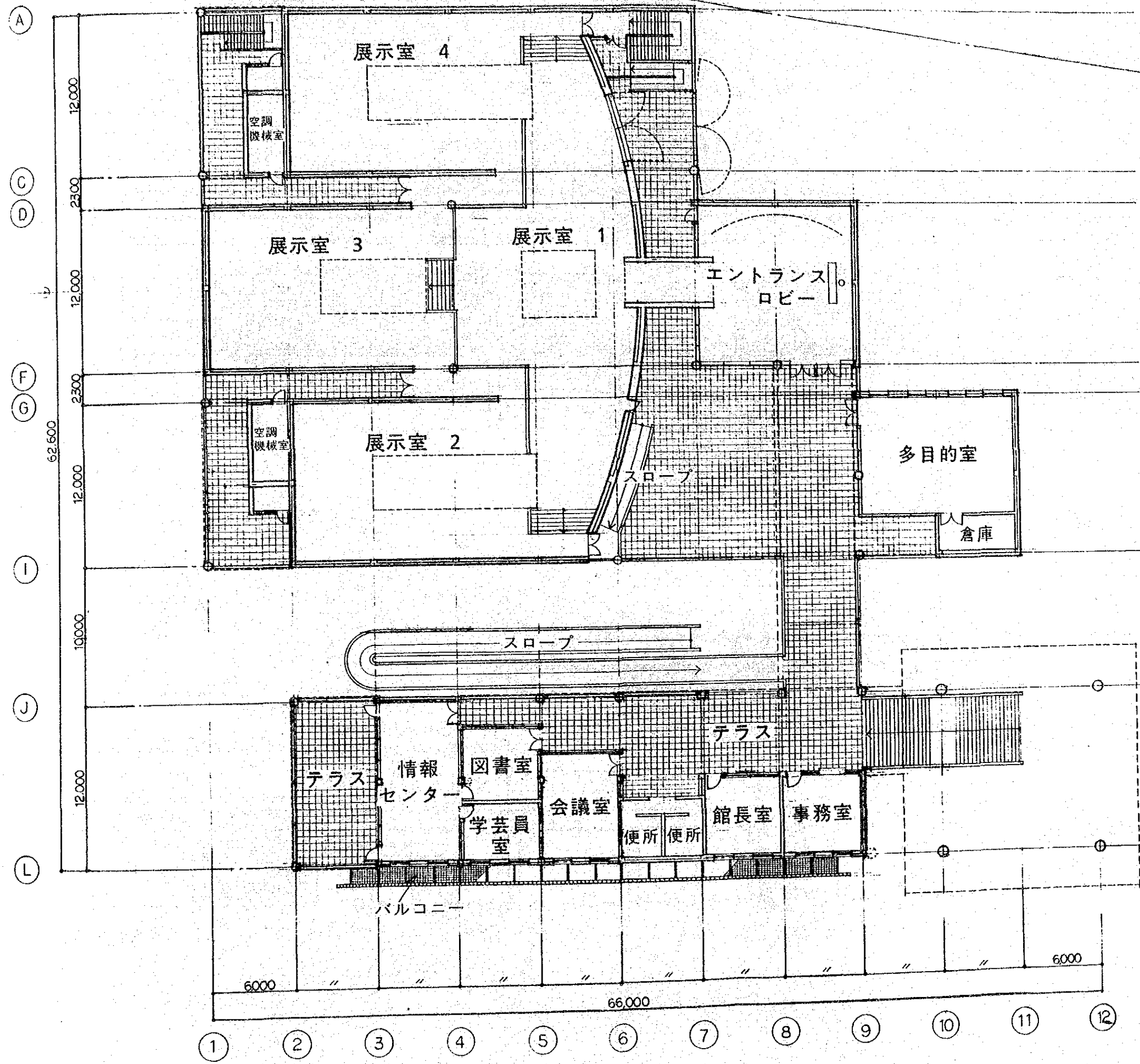


配置図

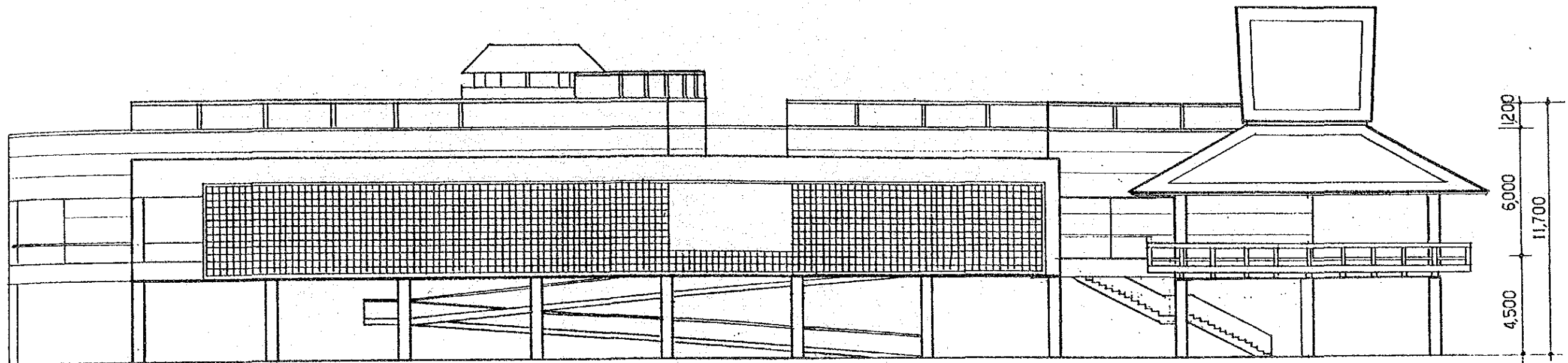
縮尺 1/400



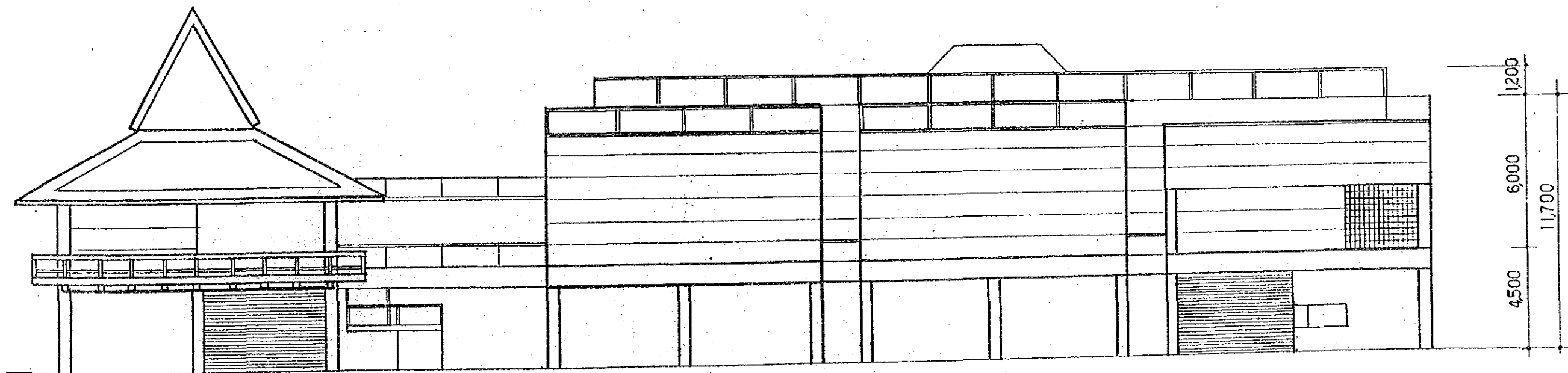
1階平面図 縮尺 1/300



2階平面図 縮尺 1/300



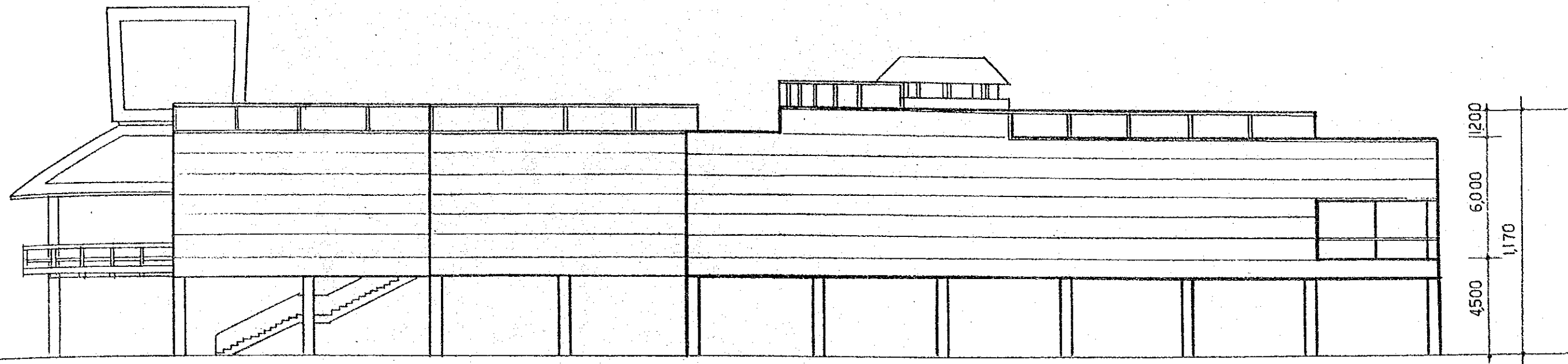
南立面図



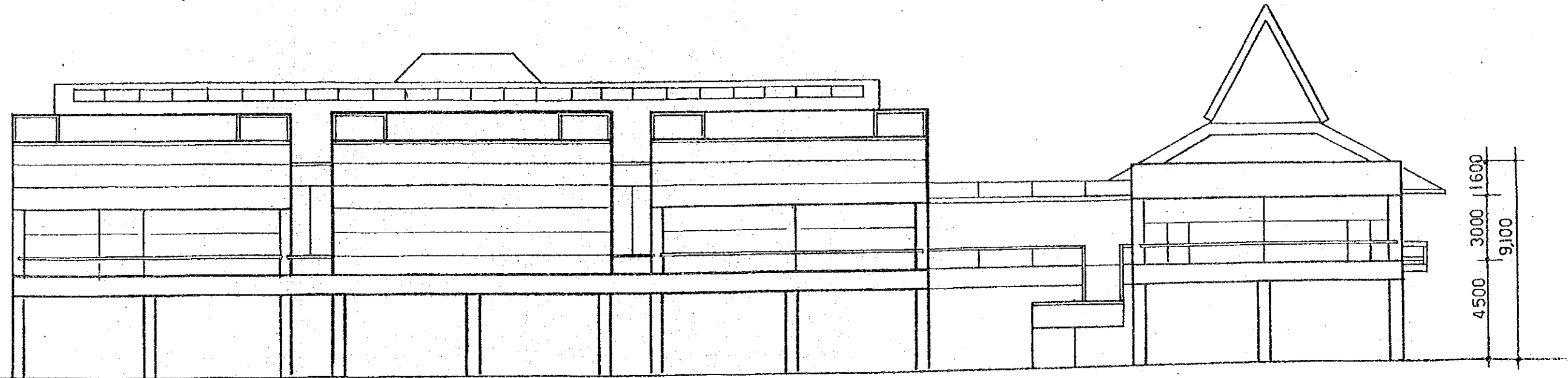
東立面図

立面図

縮尺 1/200

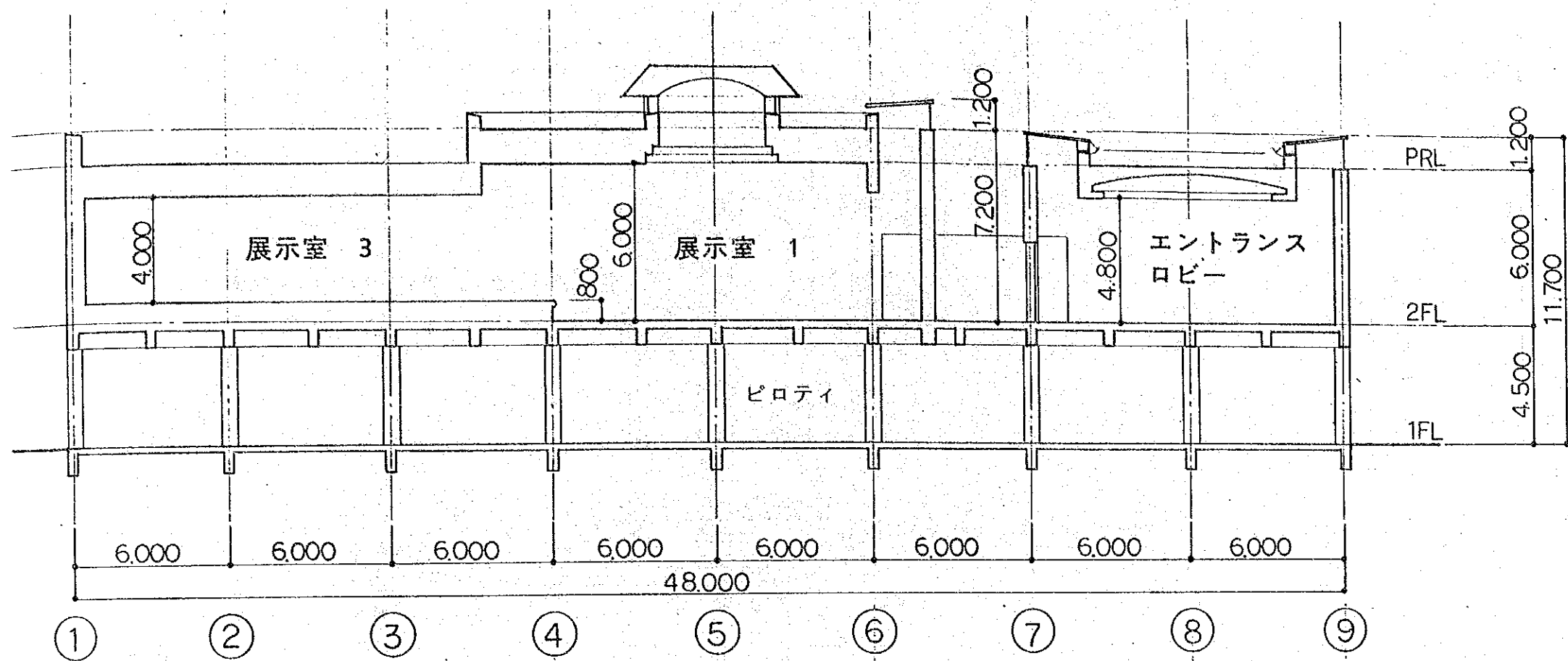


北立面图

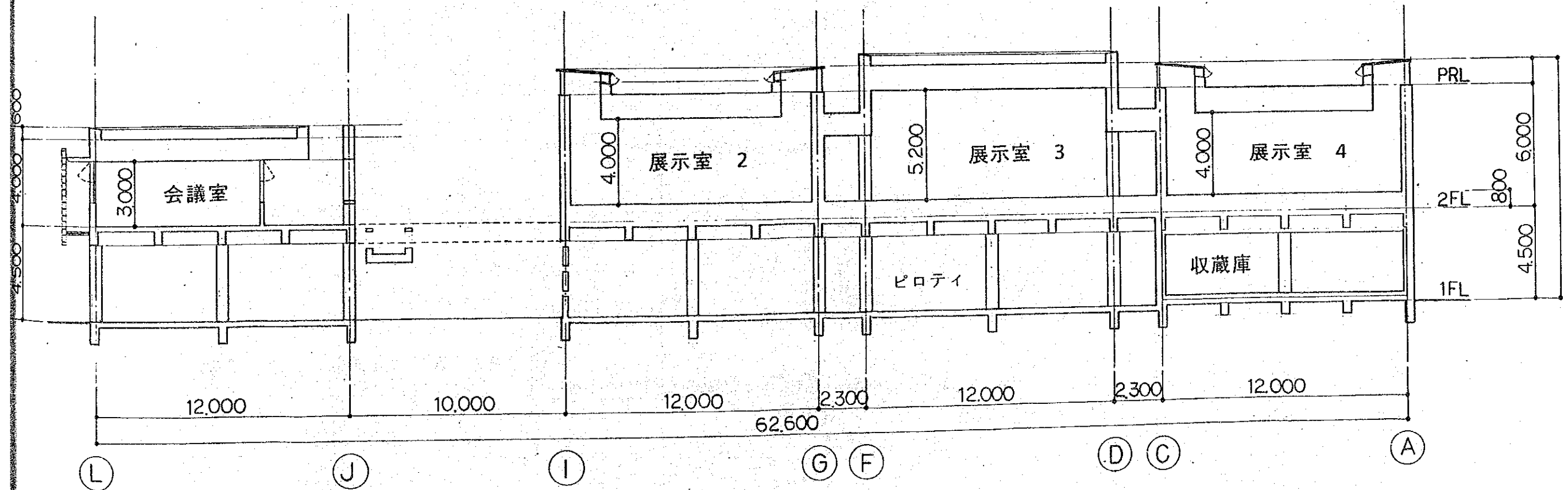


西立面图

立面图 縮尺 1/200



東西断面図



南北断面図

断面図

縮尺 1/200